

第5回大西記念文献賞選考経過ならびに 論文要旨について

今回の大西記念文献賞の選考対象は、昭和46年1月から同年12月までの間に公表されたOR関係の著作である。同賞は、故大西名誉会長の、若いOR関係者の研究意欲を盛り上げたいという、ご厚志によって設定されたものである。数回の選考委員会を経て、松田武彦氏および関口光晴氏の共著である、JORSJ, Vol. 13, No. 3 所載の論文“Models of the Human Forecasting Behavior”が、いわゆる exponential smoothing method を Bayesian method の観点から意味づける興味深いものとしてとり上げるようになった。従来も共著の場合の取扱いに苦慮してきたのであるが、共著者の一人である関口氏が満40歳以下という受賞の原則を満たしていることから、上記論文と同氏を受賞候補として理事会に推薦した。理事会で承認、決定され、1972年通常総会において発表された。

論文の内容

環境が変化しないとみられる状況下では、人間は過去の出来事を基にして予測を行なう。非常に単純な状況下において人間の行なう予測値と指数平滑法で予測したものは、比較的一致することが経験的に知られている。しかし、予測の手段としての妥当性といった面で説得力に欠けるきらいがある。環境が変化しない場合の予測方法として、最も妥当性が高く説得力が強いものにベイジアン法がある。この論文は、指数平滑法をベイジアン法と対比することにより、平滑指数のもつ意味を検討している。それによると、平滑指数は環境不変とする前提にどの程度の信頼を置いて過去のデータを予測に結びつけているかを示す。指数平滑法は、環境条件一定という条件に対する不安をも考慮に入れた予測方法であり、予測の手段としてベイジアン法と同様十分な妥当性を有する。

大西記念文献賞選考委員長 宮 沢 光 一

関口さんのプロフィール

関 口 光 晴

略 歴

生年月日 1944年(昭和19年)1月19日生

現住所 〒554 大阪市此花区伝法町北 1-5

住宅公団千鳥橋団地 1-634

1966年3月 東京工業大学経営工学科卒業

1968年3月 東京工業大学理工学研究科修士課程修了

1971年6月 東京工業大学理工学研究科博士課程修了

1971年7月 三和銀行事務部勤務



関口さん、第5回大西文献賞受賞おめでとうございます。同じ研究室に学んだ私たちにとって、今回の受賞は大きな喜びであり誇りであります。

身近に接したことのある者にとって関口さんのプロフィールは、研究一筋に没頭する学者ハズというよりは、むしろ夏は水泳、冬はスキーを楽しむスポーツマンであり、何でも気楽に話し合える活動的なリーダーといったほうがふさわしいようです。しかし、研究に必要な知識ばかりでなく、政治、経済、社会など広く物事に関心をもち、読書量は相当のものでした。そうした広い視野と集中力、分析力が、今回の論文を創造する原動力となったものと思われまます。

関口さんの一連の論文は、行動科学的アプローチを志す私たちにとって、一つの方向を示すものです。現在の実務家としての立場からの体験が加味され、実務の上だけでなく学問的にもどんな成果が生みだされるか大いに期待しています。

((株)ソニー 諸 星 拓 二)